

第21週の発生動向(2006/5/22~2006/5/28)

1. 伝染性紅斑については、**警報**が弘前で第13週から、五所川原保健所で第16週から継続して出され、注意が必要です。
2. A群溶血性レンサ球菌感染症については、上十三保健所管内で**警報**が出されました。
3. 流行性耳下腺炎については、上十三保健所管内で第19週から**注意報**が出されています。
4. インフルエンザについては、県全体では減少しましたが、八戸保健所管内では患者報告数が多い状態が続いていることから引き続き注意が必要です。迅速診断キットにより、弘前保健所管内ではA型：9件、B型：17件、八戸保健所管内ではB型が3件、むつ保健所管内では、A型：10件、B型：1件が報告されています。

第21週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	15	1.07	26	1.73	60	4.29	6	0.86	12	1.33	11	1.83	130	2.00	-34
(60) 咽頭結膜熱	5	0.56	1	0.11	2	0.22					4	1.00	12	0.29	7
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	1.67	15	1.67	6	0.67			27	4.50	5	1.25	68	1.62	8
(62) 感染性胃腸炎	24	2.67	38	4.22	6	0.67	5	1.00	2	0.33	55	13.75	130	3.10	21
(63) 水痘	9	1.00	20	2.22	23	2.56	4	0.80	7	1.17	11	2.75	74	1.76	11
(64) 手足口病			2	0.22							3	0.75	5	0.12	-1
(65) 伝染性紅斑	4	0.44	12	1.33	5	0.56	15	3.00	7	1.17	4	1.00	47	1.12	-10
(66) 突発性発しん	4	0.44	3	0.33	6	0.67			6	1.00	6	1.50	25	0.60	8
(67) 百日咳					1	0.11							1	0.02	1
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	2	0.22	1	0.11					1	0.17			4	0.10	-8
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.67	8	0.89	7	0.78	11	2.20	28	4.67	10	2.50	70	1.67	20
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00			2	1.00			2	1.00			6	0.55	-2
(59) RSVウイルス感染症	1	0.11	1	0.11									2	0.18	-2
(82) マイコプラズマ肺炎					4	4.00							4	0.67	3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(29) つつが虫病(五類全数把握疾患)

青森保健所管内 : 1人

(18年計 2人)

感染症の窓

感染性胃腸炎

県内の感染性胃腸炎の報告数は昨年に比べると増減を繰り返しながら推移しており、特に弘前、むつ保健所管内では多い報告数となっています(図1,図2)。病原体として多いのは、ノロウイルスです。主症状は嘔吐、下痢、発熱です。感染予防としては、**手洗いの励行**が重要です。特に**患者便及び吐物の取扱いの際にはマスクや使い捨て手袋を着用するなど慎重に処理**することが必要です。特にノロウイルスによる感染では、症状が消失した後、患者便中に病原体が排出されることがあるため、2次感染にも注意を払う必要があります。

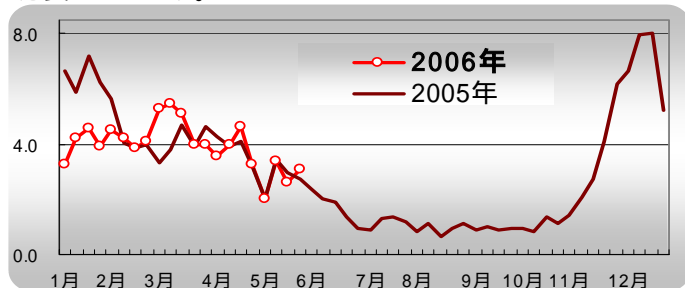


図1. 2年間の定点あたり報告数推移(青森県)

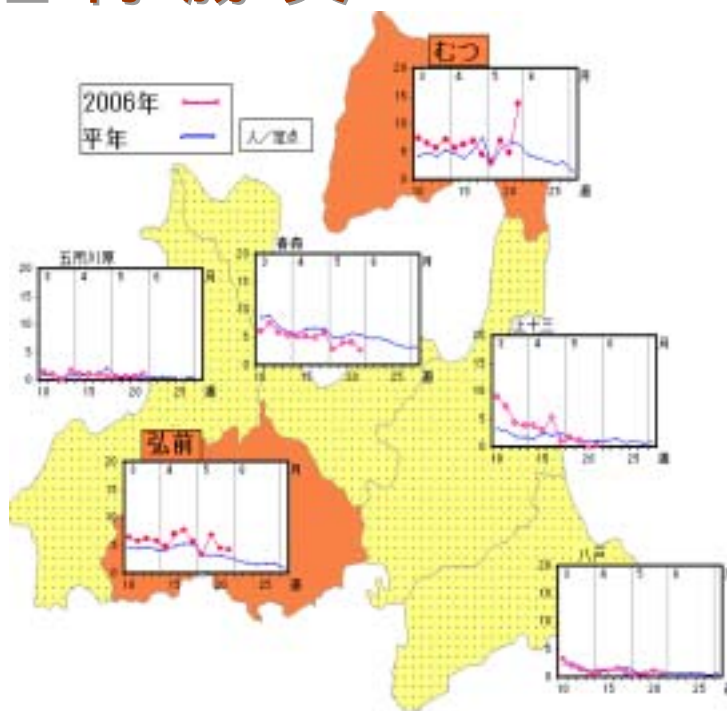


図2. 保健所別報告数推移(2006年)